

2013年(平成25年)3月

---

---

# 相生市遺跡分布地図及び地名表

---

---

相生市教育委員会

## 相生市遺跡分布地図及び地名表

### 例 言

- 1 本図表は、昭和58年度に作成した「相生市遺跡分布地図及び地名表」をもとに、平成23年度及び平成24年度の2ヶ年をかけて、市内にのこる遺跡を再調査したものを収録しました。
- 2 この分布地図に記された遺跡はすべて文化財保護法第2条にいう文化財であり、保護対象となるものです。従って開発事業を行う場合は、市教育委員会との事前協議を必要とします。  
なお、この分布地図以外に未発見の埋蔵文化財も多く予想されるので開発事業の際に、埋蔵文化財が発見された場合は、市教育委員会へ速やかに届出をお願いします。
- 3 この分布地図の作成に当たって、遺跡を4種類（城跡、古墳、集落址その他、窯跡）に分けています。なお、窯跡は数も多いため、別地図で記載しました。
- 4 地図については、北部、中部、南部の3地区に分け、1000m方眼を組み、横にA・B・Cの記号をつけました。地名表の地図番号の項は、該当遺跡がどの方眼に所在するかを表しています。ただし、窯跡はこの限りではありません。
- 5 地図の遺跡番号と一覧表のNo.は一致しています。
- 6 遺跡番号は「兵庫県遺跡地図（平成23年3月31日 兵庫県教育委員会発行）」によります。
- 7 須恵器の窯跡を考古学用語としては、「窯跡」・「古窯跡」・「窯址」・「古窯址」などがありますが、本遺跡分布地図では「窯跡」の用語を用いています。
- 8 地図は、相生市発行のもので25,000分の1、10,000分の1（共に株式会社ワールド調整平成16年3月修正分）を使用しました。
- 9 研究者の便宜をはかるため、分布地図には消滅した遺跡も含めました。

#### 10 図面記号

城跡（A）	凸
古墳（B）	● 現存 ○ 消滅
集落址その他（C）	▲ または□
窯跡	● 現存 ○ 消滅
須恵器散布地	×

11 表中の旧台帳とは、「特別地域埋蔵文化財 遺跡分布地図及び地名表（昭和48年3月31日 兵庫県教育委員会発行）」のことです。

12 この地図に記されている完全消滅とは、土木工事や発掘事業等により現存していないもののことで、消滅とは、土砂崩れや水害等による天災により崩壊したものをいいます。（古墳の一覧表に限ります。）

13 窯跡一覧表のアルファベットのIの表記がないのは、アラビア数字の1との混同をさけたためです。

14 本図表の作成は、下記の調査委員の分布調査結果を相生市教育委員会生涯学習課が編集しました。

分布調査にあたっては、下記の方々のご指導とご協力を得、ご教示を頂きました。記して感謝いたします。

亀田 修一（岡山理科大学教授）、白石 純（岡山理科大学教授）、森内秀造（兵庫県まちづくり技術センター調査第2課長）、横山 聖（岡山理科大学院生）、鈴木 豊彦（元相生市文化財保護審議会会長）、河井 孝幸（相生市文化財保護審議会委員）（敬称略）等、その他多くの地元の方々の協力を得て作成しました。

相生市遺跡分布地図及び地名表  
平成25年3月発行  
編集・発行 相生市教育委員会  
印 刷 ミカミプリント

城跡(A)

地図番号	No.	遺跡名	種類	立地	地目	所在地	所有別	遺構	遺物	現状	備考	遺跡番号
A5	1	感状山城 (瓜生城)	城址	山頂	山林	感状山	公有地	本丸 広さ東西33.00m 南北16.00m 石垣 二の丸跡15.00m×16.50m 石塁 高さ2.00m 長さ40.00m	銅銭、白磁、青磁、備前焼大甕、すり鉢、茶臼、土師皿、絨毛、切羽等多数。	I 曲輪の東側が一部崩れている。北II 曲輪に礎石及び階段と瓦列を確認。北曲輪群の1～3段の曲輪西斜面の一部に石垣を確認。北曲輪群西端の南側に幅約1～1.5mの通用門らしきものを2カ所確認。III 曲輪群東端の南側に幅約0.5～1.6mの通用門らしきものを2カ所確認。III 曲輪群東端の北側に幅約1.3mの通用門らしきものを確認。出曲輪北側の搦手門を確認。搦手門の東側に階段状の石段を確認。	「播磨鑑」「日本城郭体系」城主、瓜生左衛門尉。昭和60年～63年、発掘調査(相生市教育委員会)『感状山城跡発掘調査報告書』国指定史跡	国指定史跡29
A5	2	矢野城 (藤堂山城)	城址	山麓	山林	矢野町森	私有地	石塁(東、北、西) 高さ約2.00m 長さ 東-62.00m 北-77.00m 西-64.00m 石塁幅約1.02m、周濠が北から南に掘り込まれている。		石垣を確認。一見すると猪垣の様に考えられるが、山裾部の石垣に大石を使っており、城郭の石を使っている可能性あり。現状では判別しがたい。	「播磨鑑」「日本城郭体系」城主、赤松彦五郎則実	090105
A6	3	森城(飯野山城)	城址	山頂	山林	矢野町森	私有地	山頂は東西55.00m、南北19.05mの平地があり、その周りに約3.00mの崖、崖下に細長い平地、西方に幅4.00mの空堀が40.00mの長さに作られる。		東西約180m、南北約35mの広さ。東西両端(標高133mと143m)にそれぞれ幅約4.0～5.0m、長さ約20～25m、深さ2.0mの空堀を確認。西側の空堀の内側には東西約5.0m、南北約18m、高さ約0.8mの土塁を確認。山頂部(149.5m)に東西約52m、南北約17mの曲輪を確認。その南北にそれぞれ幅約1.5m～4.6m、長さ24mの腰曲輪を確認。山頂から東北に約125m離れた標高137.3m地点に東西約19m、南北約16mの曲輪を確認。その西側に幅約21m、長さ約30mの曲輪を確認。その南東に幅約1.0～2.0mの曲輪を複数確認。	「岡城記」「日本城郭体系」城主、赤松下野守村秀	090106
A6	新規(1)	感状山出城	城址	山頂	山林	矢野町瓜生	私有地		土師器片。	山頂(194.7m)に東西7.5m、南北11mの曲輪を確認。それに続くように南側に曲輪を3段確認。さらにその南側にも約21mの範囲に曲輪状のもの4段を確認。その先に幅約1mの溝がある。そこから幅約18mの平坦部が続き、その東西に幅約2.0mの腰曲輪を確認。山頂から北西約200m離れた標高166.8m地点に東西約31m南北約7.0mの曲輪状のものを確認。山頂から南西約200m離れた標高187.8mの地点に曲輪とは言い切れないが南斜面に段状加工された場所と通路状のものを確認。		
D4	4	下土井城 (太田林山城)	城址	尾根	山林	若狭野町下土井	私有地	本丸 東西22.00m 南北9.70mの広さ その周りに2重の段。掘割高さ10.00m以上(直線式梯郭式城)	土師器片。	本丸東側の曲輪に東西約3.5m、南北約4.6mの石組の井戸1基と、西側の標高90mの斜面部に岩盤をくり抜いた東西約2.3m、南北約3.6mの井戸、合計2基を確認。本丸から北に約100m離れた地点に南から長さ約13.0m以上、幅約3.7m、高さ約4.5mと長さ約18.0m以上、幅約1.2m、高さ約1.5～1.6mと長さ約19.0m以上、幅約1.5m、高さ約3.0mの3本の空堀を確認。これら3本の空堀は南北両斜面下方に竪堀状に延びている。本丸から南西約40m離れた南斜面に放射状に竪堀を6本確認。下土井城本丸から南に約100m下ったところに曲輪があると記されていたが確認できなかった。下土井城本丸から南に約30m下ったところに曲輪状のもの確認するが城に関連するものかはっきりしない。	「播磨鑑」「岡城記」「赤穂郡誌」「日本城郭体系」城主、岡豊後守	090107
E2	5	若狭野陣屋跡	平屋敷	山麓	雑種地 境内地 畑 宅地	若狭野町若狭野	私有地	陣屋三千石の旗本の邸宅、1600㎡の敷地内に六室の本邸と内庭、表門、庭入口門などの他倉庫、馬屋などがあつたらしい。陣屋跡と土堀。		邸宅跡に若狭野須賀神社、薬師堂が立っている。現在残る建物は、元札座。土堀、石垣現存。陣屋表門は那波野西法寺表門として現存。	「相生史話」「日本城郭体系」「若狭野誌」城主、浅野長恒	090108
D7	6	光明山城 (紫雲城)	城址	尾根上	山林	光明山	私有地	本丸 東西24.00m 南北14.00mの広さ。二の丸、三重の空堀、郭跡が7個、石垣と土盛り。	瓦、須恵器、備前焼陶片。	I 曲輪(本丸)とII 曲輪の間の堀切は中央部で土橋状を呈している。同じく西II 曲輪と西III 曲輪の間の堀切も一部土橋状を呈している。本丸と西城の間の谷部に並行する石段を3列確認でき、一番下の段は東西約6.2m、南北約11.7mの池になっている。その池の東南に南北約1.4m、東西約1.7mの円形で石組の井戸を確認。大手門から北西約10mの地点に土塁に囲まれた池を確認。南出城にて瓦を採集。	「播磨鑑」「日本城郭体系」城主、赤松則村	090109
I7	7	大島山城	城址	島頂上	境内地 宅地	那波大浜町	公園	本丸跡、郭跡、井戸2、墓地があり、東西93.00m、南北36.00mの広さで、中央部がくびれ。	五輪塔、宝篋印塔、備前焼甕片。	本丸(大島山公園)を囲むように幅約5.0～10mの帯曲輪(1～2段)を確認。東側と南側の斜面には山頂へと続く道を確認。東側の道には山頂付近に石段が存在。本丸西側には城に伴うものかどうかかわからないが井戸1基を確認。	「播磨鑑」「海老名家文集」「日本城郭体系」城主、海老名太郎左衛門尉家季	090110

地図 番号	No.	遺跡名	種類	立地	地目	所在地	所有別	遺構	遺物	現状	備考	遺跡番号
17	8	那波岡の台城 (那波浦城)	城址	台地	その他 (学校)	那波南本町	公有地 (那波中 学校テ ニスコ ート)	本丸跡、梯郭跡、堅堀な どところどころに築城時の 遺構が北側の上にみられ る。(81.00m×45.00m)本 丸をとりまいて約3.30mの 断崖がある。		那波中学校の敷地で大幅に削平されており、ほとんど残存していない。ただ、 中学校の南東側には、数段の曲輪が存在するようであるが、雑木林が繁成し ているため確認できず。平成7年度に那波中学校校舎東側のテニスコート北 側斜面と北西部の斜面を発掘。北西部に石垣が検出されたが、城跡のものは 不明、城跡関連の遺物出土は無し、トレンチにより段築を確認。	「播磨鑑」「海老名家文 集」「日本城郭体系」城 主、宇野弥三郎重氏。 平成7年発掘調査(相 生市教育委員会)『那 波浦城跡発掘調査報 告書』	090111

## 古墳(B)

地図 番号	No.	遺跡名	現 存	全 壊	時代	種類	立地	地目	所在地	所有別	遺構	遺物	現状	座標	備考	遺跡 番号
A5	1	森古墳	●		古墳後期	円墳	丘陵裾	山林	矢野町森字西山	私有地	横穴式石室 石室(天井石、東西3.70m、南北2.50m、厚さ2.15m)東壁(現高1.20m)		旧相生市遺跡分布地図では後世の補修、古墳の変形を受けたと思われるとあるが、現状では古墳であるかどうかよくわからない。	N:34° 52'356" E:134° 27'410"	『有年考古館目録』『相生市史資料編(第二集)』(昭和35年3月)	009001
B5	2	菅谷古墳1号墳	●		古墳後期	円墳	丘陵上	山林	矢野町菅谷字松ヶ鼻	私有地	横穴式石室 墳丘 約3.00m×3.00m		墳丘:長さ約11.0m、幅約9.0m。石室:長さ約2.70m、幅1.70m。盗掘跡(4.40m×3.30m)、奥壁(1.50m×1.20m)を確認。	N:34° 51'487" E:134° 26'354"	旧台帳 八幡神社裏山 1号墳	009002
B5	3	菅谷古墳2号墳	●		古墳後期	円墳	丘陵上	山林	矢野町菅谷字松ヶ鼻	私有地	横穴式石室 墳丘 約3.00m×3.00m 羨道部も壁が崩壊(現長3.40m、幅(奥)1.70m)		墳丘:長さ約13m、幅約11m、高さ約2.5m。中心部に長さ約3.5m、幅2.4mの窪みあり。盗掘跡。南向き開口。割石1点確認。	N:34° 51'471" E:134° 26'354"	旧台帳 八幡神社裏山 2号墳	009003
C4	4	小河観音古墳1号墳	●		古墳後期	円墳	丘陵裾	山林	矢野町小河字観音	私有地	横穴式石室 全長5.00m、玄室長2.75m、室幅1.20m、両袖 玄門の幅1.00m、奥壁3段、玄室天井石2、組合式石棺の蓋石と左右側石の一部あり。		横穴式石室、玄室内には箱式(組合)石棺があり、その石蓋の上に五輪塔、墳丘上に稲荷社を祀る。羨道は天井石が落ちかかり石で支えている。また玄室内は土がかなり埋まっている。	N:34° 51'353" E:134° 26'214"	旧台帳 小河観音山古墳	009004
B4	5	小河観音古墳2号墳	●		古墳後期	円墳	丘陵上	山林	矢野町小河字観音	私有地	横穴式石室 計測不可能なるも天井石(2.50m×1.65m、厚さ0.55m)がある。		墳丘:長さ約12m、幅約12m、高さ約2.0m。石室:長さ約5.1m、幅約1.2m(入口側)、2.4m(奥壁側)、天井石(1.6m×2.2m)1石確認。南向き開口。	N:34° 51'487" E:134° 26'212"	旧台帳 小河観音裏山古墳	009005
D5	6	下頃古墳1号墳	●		古墳中期	円墳	丘陵上	山林	矢野町下田字裏山	私有地	横穴式石室 墳丘 約4.00m×3.00m 石室(現長4.70m幅(奥)1.13m)		墳丘:長さ約18m、幅約14.0m、高さ約2.5m。石室はほぼ全壊、墳丘上に石材が散乱。おそらく南向き開口で全長は約6.0m。	N:34° 51'114" E:134° 27'020"	旧台帳 下頃2号墳	009006
C5	7	下頃古墳2号墳	●		古墳後期	円墳	山腹	山林	矢野町下田字裏山	私有地	横穴式石室 石室(現長6.00m、幅1.05m)		墳丘:長さ約13m、幅約12m、高さ約2.0m。石室:長さ約6m。奥壁:三枚積みの幅約1.4m天井に近づくほど内傾し、天井部幅約0.8m土に埋もれているため高さは不明。側壁:西側は二段積みで南側は途中で崩れている。天井石を2石確認、奥壁近くの天井壁は1.4m×1.0mである。南向き開口。外護列石。	N:34° 51'130" E:134° 27'041"	旧台帳 下頃3号墳	009007
D5	8	下田西山古墳	●		古墳中期	円墳	山頂	山林	矢野町下田字甲西山	私有地	組合箱式石棺 南側、現長1.66m 幅0.36m～0.28m 北側、現長約1.66m、幅0.34m～0.12m	頭骸骨2、青銅鏡片1、鉄鏃1、槍鉋、枕石、須恵器片多数出土。	墳丘:長さ約11m、幅約8.0m、高さ約0.5m～0.7mで方形の可能性あり。組合箱式石棺:東西約1.4m、幅約0.3m～0.5m、北側に天井石(0.5m×0.4m)と思われるものあり。南側約1mの地点に東西約1m、幅約0.5mの浅いくぼみあり。	N:34° 50'569" E:134° 26'302"	『相生市史資料編(第二集)』(昭和35年3月)昭和26年5月、発掘調査。名古屋大学 樽崎彰一氏、島田清氏ら。	009008
D4	9	下土井城山古墳	●		古墳後期	円墳	丘陵上	山林	若狭野町下土井字城山	私有地	横穴式石室	須恵器杯出土。	頂部、東西7.40m、幅3.40mの範囲に方形陥没。昭和46年の大雨以降陥没ひどく、空洞のみ残存。現状では空洞は確認できない。消滅。			009009
E4	10	寺田城の下古墳	●		古墳後期	円墳	山腹	山林	若狭野町下土井字城ノ下	私有地	横穴式石室 墳丘 約3.00m×3.00m	須恵器多数出土。	下土井城(岡城)がある山の一隅に墳丘が見られたが、盗掘、流出により消滅。		旧台帳 寺田古墳	009010
D4	11	下土井山崎山古墳1号墳	●		古墳中期	方墳	丘陵上	山林	若狭野町下土井字山サキ	私有地	竪穴式石室 天井石3個(長さ1.40m、幅0.47m) 石室の方位、北西-南東。	須恵器片多数出土。	昭和59年度分布調査、1号墳精査。天井石露出3個、護石露出、山側で1～2段、谷側で約3段、30～40cmの角礫を用いる。現状を確認。	N:34° 50'521" E:134° 25'574"	『相生市史第五巻』	009011
D4	12	下土井山崎山古墳2号墳	●		古墳中期	円墳	丘陵上	山林	若狭野町下土井字山サキ	私有地		墳丘傾斜面より須恵器片出土。	昭和59年分布調査。山崎山1号墳に接近。両古墳の中心間約15m、低い稜線上、墳丘の東南約4.0m。2段の護石あり、各々角礫を80cmごとに築いている。現状を確認。	N:34° 50'521" E:134° 25'574"	『相生市史第五巻』	009012
D4	13	下土井山崎山古墳3号墳	●		古墳中期	円墳	丘陵上	山林	若狭野町下土井字山サキ	私有地		墳丘より須恵器片。	昭和59年度、分布調査。完存を確認。	N:34° 50'521" E:134° 25'574"	『相生市史第五巻』	009013

地図 番号	No.	遺跡名	現 存	全 壊	時代	種類	立地	地目	所在地	所有別	遺構	遺物	現状	座標	備考	遺跡 番号
D4	14	下土井山崎山古墳 4号墳	●		古墳中期	円墳	丘陵上	山林	若狭野町下土 井字山サキ	私有地			昭和59年度、分布調査。完存を確認。	N:34° 50'521" E:134° 25'574"	『相生市史第五巻』	009014
D4	新規 (1)	下土井山崎山古墳 5号墳	●		古墳中期	円墳	丘陵上	山林	若狭野町下土 井字山サキ	私有地			昭和59年度、分布調査。完存を確認。	N:34° 50'521" E:134° 25'574"	『相生市史第五巻』	
D4	新規 (2)	下土井山崎山古墳 6号墳	●		古墳中期 (推定)	円墳 (推定)	丘陵上	山林	若狭野町下土 井字山サキ	私有地			5号墳から南東へ数mの地点に南北約8.0m、 東西約8.0m、高さ約0.5mの高まりあり。	N:34° 50'521" E:134° 25'574"	墳丘を確認、古墳の可能性が ある。	
D4	15	下土井飛之尾古墳 1号墳	●		古墳後期	円墳	山腹	山林	若狭野町下土 井字池ノ内	私有地	横穴式石室	鉄鏃、提瓶などの須 恵器片。	墳丘不明。割石散乱。	N:34° 50'518" E:134° 25'489"		009015
D4	16	下土井飛之尾古墳 2号墳	●		古墳後期	円墳	山腹	山林	若狭野町下土 井字池ノ内	私有地	横穴式石室		墳丘:高さ約3.0m。石室:奥壁側の一部土で 埋もれている。側壁:3段積みで南側約3.1m、 北側約2m、幅約1.2m~1.7m、天井に近づく ほど内傾する。高さ約1.5m、東向き開口。奥 からみて右片袖。天井石(1.0m×1.7m)が乗っ ている。	N:34° 50'470" E:134° 25'487"		009016
E3	17	大避山古墳1号墳	●		古墳前期	前方後 円墳	山腹	山林	若狭野町下土 井字東山	私有地	竪穴式石槨 墳丘:全長約57.00m 後円部径25.00m 前 方部27.00m 高さ:後 円部約3.50m 前方部 全面約1.50m	高坏、台付碗、甕、 壺の土師器の細 片。	現状を確認。平成13年度の測量調査で前方 後円墳であると確認された。墳丘に長方形の 陥没。	N:34° 50'283" E:134° 25'403"	旧台帳 下土井宮裏1号墳。 『入野大谷2号墳 緑ヶ丘2号墳 大避山1号墳調査報告書』 「大避山1号墳測量調査報告」 『ひょうご考古』第8号 2001.10 兵庫考古研究会	009017
E3	18	大避山古墳2号墳	●		古墳中期	円墳、 もしくは 方墳	山腹	山林	若狭野町下土 井字東山	私有地	墳丘:長辺約14m、短 辺約10m、高さ約1m (方墳の場合)、墳丘に 人頭大の角礫あり。		平成13年度、測量調査。墳丘に盗掘壙、現状 を確認。	N:34° 50'255" E:134° 25'398"	旧台帳 下土井宮裏2号墳。 「大避山1号墳測量調査報告」 『ひょうご考古』第8号 2001.10 兵庫考古研究会	009018
E3	19	大避山古墳3号墳	●		古墳中期	円墳、 もしくは 方墳	山腹	山林	若狭野町下土 井字東山	私有地	竪穴式箱式石棺 墳 丘 約3.00m×3.00m (方墳の場合1辺10m 前後)		平成13年度、測量調査。墳丘に盗掘壙、現状 を確認。	N:34° 50'250" E:134° 25'396"	旧台帳 下土井宮裏3号墳。発 掘調査、有年考古館長、松岡 秀夫氏ら。「大避山1号墳測量 調査報告」『ひょうご考古』第8号 2001.10 兵庫考古研究会	009019
E3	新規 (3)	大避山古墳4号墳	●		古墳中期 (推定)	円墳 (推定)	山腹	山林	若狭野町下土 井字東山	私有地			大避山3号墳から南に約20mの地点、南北約 5.0m~6.0m、東西約6.0m、高さ約1.0mの高ま りあり。墳丘北部に溝があり、周溝の可能性あ り。	N:34° 50'241" E:134° 25'390"	古墳の可能性はあるが現状で は判別できず。	
E2	20	若狭野古墳	●		古墳後期	方墳	山裾	山林	若狭野町字寺 山	私有地	横穴式石室 西側壁 長4.82m 東側壁長 4.62m 玄門幅1.38m 羨門幅1.42m 外護列 石	壺、甕などの須恵器 片、土師器編が出 土。	横穴式石室残存。墳丘の西北に2段の石罌が 露出、3段の墳丘。墳丘の東南に立石2個、玄 門に左右により袖石が張り出し、扇石が残存。 玄室内には小礫が敷かれている。現在、整備 されている。	N:34° 50'146" E:134° 25'036"	昭和55年3月、測量調査。天理 大学、西谷真治氏ら。昭和60年 3月、県指定史跡。『相生市史 第五巻』	009020
E4	21	八洞古墳1号墳	●		古墳中期	円墳	丘陵上	山林	若狭野町野々 字北山	私有地	横穴式石室	円筒埴輪片。	消滅。			009021
E4	22	八洞古墳2号墳	●		古墳後期	円墳	丘陵上	山林	若狭野町野々 字北山	私有地	横穴式石室	大埴、高坏蓋。	消滅。			009022
F4	23	野々宮山古墳1号 墳	●		古墳中期	円墳	丘陵上	山林	若狭野町野々 字西山	私有地	竪穴式石室 墳丘 約 10m 高さ2.00m	円筒埴輪片、弥生 式土器片出土。(墳 丘附近)	墳丘:南北約18m、東西約18m。中心部に南 北2.5m×1.5mの窪みに割石確認。	N:34° 50'075" E:134° 26'145"	昭和30年頃発見。旧台帳 天 満神宮裏山1号墳	009023
F4	24	野々宮山古墳2号 墳	●		古墳中期	円墳	丘陵上	山林	若狭野町野々 字西山	私有地	竪穴式石室 墳丘 約 3.00m×3.00m	埴輪、鉄剣、刀子、 鉄斧が出土。	墳丘:南北約11m、東西約9.0m。中心部に東 西1.3m×1.0mの窪み内に割石確認。	N:34° 50'074" E:134° 26'140"	旧台帳 天満神宮裏山2号墳	009024
F4	25	野々宮山古墳3号 墳	●		古墳中期	円墳	丘陵上	山林	若狭野町野々 字西山	私有地	竪穴式石室 墳丘 約 3.00m×3.00m		消滅。		旧台帳 天満神宮裏山3号墳	009025

地図 番号	No.	遺跡名	現 存	全 壊	時代	種類	立地	地目	所在地	所有別	遺構	遺物	現状	座標	備考	遺跡 番号
F4	新規 (4)	野々宮山古墳4号墳	●		古墳中期 (推定)	円墳 (推定)	丘陵裾	山林	若狭野町野々 字西山	私有地			南北約12m、東西約11mほどの高まりあり。中心部に割石が散乱。	N:34° 50'061" E:134° 26'054"	墳丘を確認、古墳の可能性が ある。	
F5	26	上松古墳1号墳		●	古墳後期	円墳	丘陵上	山林	若狭野町上松 字向山	私有地	横穴式石室	高坏、甕、壺など須 恵器片出土。	国道2号線開通により消滅。			009026
F5	27	上松古墳2号墳		●	古墳後期	円墳	丘陵上	山林	若狭野町上松 字向山	私有地	横穴式石室		国道2号線開通により消滅。			009027
F3	28 ～ 30	雨内古墳群1～3号		●	古墳後期	円墳	丘陵上	山林	若狭野町雨内 字殿山	私有地	横穴式石室	不明。	宅地造成、道路施設工事に より消滅。			009028 ～ 009030
G5	31	入野大谷古墳1号墳		●	古墳後期	円墳	山裾	山林	若狭野町入野 字大谷	私有地	横穴式石室		完全消滅。			009031
G5	32	入野大谷古墳2号墳	●		古墳後期	円墳	山裾	畑	若狭野町入野 字大谷	私有地	横穴式石室(片袖式) 玄室長3.60m 全長 6.90m 玄室の上の幅 0.9m 羨門の上の幅 1.30m	金環、管玉、埴瓶、 杯、壺などの須恵器 片。	墳丘:南北約23m、東西約18m。石室:南北約 6.2m。玄室:南北約3.9m～4.0m、東西約0.9m ～1.6mで天井に近づくほど内傾する。高さ: 2.1m、北向き開口。奥から右片袖で袖石の内 側に幅約0.5m、厚さ約0.25m、高さ約1.4mの 立柱あり。	N:34° 49'29.4" E:134° 26'59.7"	昭和57年8月、測量調査。有年 考古館長、松岡秀夫ら。旧台帳 緑ヶ丘2号墳 『入野大谷2号墳 緑ヶ丘2号墳 大避山1号墳調 査報告書』	009032
G6	33	緑ヶ丘古墳1号墳		●	古墳後期	円墳	山裾	畑	緑ヶ丘一丁目	私有地	横穴式石室		完全消滅。		旧台帳 緑ヶ丘古墳1号墳	009033
G6	34	緑ヶ丘古墳2号墳	●		古墳後期	円墳	山裾	山林	緑ヶ丘一丁目	私有地	横穴式石室(片袖式) 石室 現長3.14m 幅 1.08m 羨道 現長 4.20m 幅1.04m 高さ 1.04m	壺、杯など須恵器 片。線刻(人工的に 刻まれたものではあ るが、時代、描写物 体は不明)	石室:南北約7.9m。玄室:南北3.5m、東西約 0.8m～1.7mで天井に近づくほど内傾する。高 さ:2.6m、南向き開口。奥から左片袖。外護列 石。	N:34° 49'160" E:134° 27'139"	昭和57年8月、測量調査。有年 考古館長、松岡秀夫氏ら。旧台 帳 入野古墳 『入野大谷2号 墳 緑ヶ丘2号墳 大避山1号墳 調査報告書』	009034
H5	35	青葉台古墳1号墳	●		古墳後期	円墳	山腹	山林	佐方字矢ノ谷	私有地	横穴式石室 現長 約 3.40m		墳丘:長さ約10m、幅約9.3m。中心部に長さ約 5.8m、幅約2.2mの窪みあり。ほぼ東向き開 口。墳丘の東側一部削られている。	N:34° 48'232" E:134° 27'013"	旧台帳 矢の谷古墳3号墳	009037
H6	36	青葉台古墳2号墳	●		古墳後期	円墳	山腹	山林	青葉台	私有地	横穴式石室 天井石 1.00m×0.62m 厚さ 0.35m	附近に多くの須恵 器片散布。	墳丘:南北約7.5m、東西約8.0m、高さ約 3.5m。天井石と考えられる石(長さ1.1m、幅 0.75m、厚さ0.3m)あり。南向き開口。	N:34° 48'385" E:134° 27'049"	旧台帳 矢の谷古墳1号墳	009035
H6	37	青葉台古墳3号墳	●		古墳後期	円墳	山腹	山林	青葉台	私有地	横穴式石室 天井石 1.10m×0.90m 厚さ 0.36m		墳丘:南北約12m、東西約12m。中心部に南 北約5.7m、東西約4mの抜き取り跡あり。ほぼ 南向き開口。	N:34° 48'385" E:134° 27'049"	旧台帳 矢の谷古墳2号墳	009036
I 5	38	佐方古墳1号墳	●		古墳前期	円墳	丘陵上	山林	佐方字矢ノ谷	私有地	竪穴式石室 墳丘 約 15.00m	円筒埴輪片出土。	墳丘:南北約14.4m、東西約15.5m、高さ約 1.0m。方墳の可能性あり。	N:34° 48'228" E:134° 27'001"		009038
I 5	39	佐方古墳2号墳	●		古墳中期	円墳	丘陵上	山林	佐方字中山表	私有地	竪穴式石室	円筒埴輪片出土。	人頭大の大きさの石が散乱。今回の遺跡確認 調査では、確認できず。位置不明。			009039
H7	40	那波末道古墳1号墳	●		古墳後期	円墳	丘陵裾	山林	那波字末道	私有地	竪穴式石室	不明。	墳丘:南北約13m、東西約11m、高さ約2.5m。 東側壁は土に埋もれている。石室:南北約 5.4m、東西約0.8m、天井石が露出。1.4m× 1.6mと1.1m×0.8mの天井石が乗っている。南 向き開口。	N:34° 49'000" E:134° 28'024"	旧台帳 那波裏山1号墳(ビニ ロン山)	009040
H7	41	那波末道古墳2号墳	●		古墳後期	円墳	丘陵裾	山林	那波字末道	私有地	竪穴式石室 内部に箱 式石棺 蓋石の一つ (長さ0.82m、幅0.44m、 厚さ0.15m)	不明。	1号墳から南に約20m地点。墳丘:南北約 14m、東西約11m、高さ約3.0m。入口から奥壁 に進むにつれて幅は広がる。石室:南北約 6.4m、東西約1.3m～1.8mで天井に近づくほ ど内傾する。高さ約1.8mの天井石が露出。 1.3m×1.0mや1.0m×2.0mなど天井石が数石 乗っている。南向き開口。	N:34° 49'000" E:134° 28'024"	旧台帳 那波裏山2号墳(ビニ ロン山)	009041
H8	42	狐塚古墳		●	古墳中期	円墳	台地	宅地	陸本町	公用地	横穴式石室(箱式石 棺) 石棺 長さ約 1.60m 幅約0.30m 高 さ約0.40m	鉄刀、鉄鏃、馬鈴、 砥石、金銅製飾、小 玉、須恵器、鑑鏡片 など多数出土。	完全消滅、古墳跡地に石碑が立っている。		昭和30年2月、相生市産業会館 建設中に残存物発見。大正年 間産業公会堂建設中に発見。	009042

地図 番号	No.	遺跡名	現 存	全 壊	時代	種類	立地	地目	所在地	所有別	遺構	遺物	現状	座標	備考	遺跡 番号
E8	43	構谷古墳1号墳	●		古墳後期	円墳	山頂	山林	陸字構谷	私有地	横穴式石室 奥行約4.00m 幅1.05m		旧相生市遺跡分布地図に位置が記載されているが、今回の遺跡確認調査では確認できず。位置不明。		『相生市史資料編(第二集)』(昭和35年3月)	009043
F8	44	構谷古墳2号墳	●		古墳後期	円墳	山頂	山林	陸字構谷	私有地	横穴式石室	金環、小玉、埴瓶、壺、杯など多数須恵器、その破片出土。	石の並びが不揃いなものの南北約2.3m、東西約0.9mの範囲に石が密集している。また、東に1.5mの地点に石(0.6m×0.3m)が落ちている。	N:34°49'578" E:134°28'478"	『相生市史資料編(第二集)』(昭和35年3月)	009044
E8	新規(5)	構谷古墳3号墳	●		古墳後期(推定)	円墳(推定)	丘陵上	山林	陸字構谷	私有地			墳丘:南北約10m、東西約9.0mの高まりあり。	N:34°50'176" E:134°28'485"	墳丘を確認、古墳の可能性はある。	
F8	新規(6)	構谷古墳4号墳	●		平安時代(推定)	経塚(推定)	山頂	山林	陸字構谷	私有地			構谷山頂付近。1.5m×1.2mの範囲に板石が円を成している。経塚か墳墓。	N:34°50'006" E:134°28'483"	経塚、もしくは墳墓の可能性はある。	
G9	45	池ノ上古墳		●	古墳中期	円墳	丘陵上	畑	汐見台	私有地	竪穴式石室	スレート式板石のみ刀、槍、手斧、鍬など出土(伝)	完全消滅。		昭和55年8月、発掘調査。有年考古館長、松岡秀夫氏ら。『相生陸池ノ上古墳発掘調査報告書』	009045
G8	46	上塚古墳		●	古墳後期	円墳(推定)	丘陵裾	山林	山手二丁目	私有地	横穴式石室	陶棺、多数の須恵器片出土(伝)	完全消滅。		「陸村絵図」昭和初期に発掘されたらしい。	009046
G8	47	下塚古墳		●	古墳後期(推定)	円墳(推定)	丘陵裾	山林	山手二丁目	私有地			完全消滅。		「陸村絵図」	009047
G8	48	大塚ハザ古墳	●		古墳中期	円墳	独立丘陵地	山林	山手二丁目	私有地		円筒埴輪片。	北側および南東部は宅地造成で削られている。西側にテラス状のものがあり、古墳との関係性は不明である。	N:34°49'140" E:134°28'483"	昭和56年8月、測量調査。河原隆彦氏ら。『相生市大塚ハザ古墳調査報告書』	009048
G9	49	池ノ内上の山古墳		●	古墳中期	円墳(推定)	独立丘陵地	竹林	池之内字上ノ山	私有地	不明	円筒埴輪片、器台底部、脚部などの須恵器片。	調査後完全消滅。墳丘の東西8.00m、南北11.5m、高さ1.50m。今から80年前に盗掘されたらしい。		昭和58年7月、発掘調査、トレンチによる。相生市教育委員会。地元の人は狐塚があったという。	009049
G9	50	大道越古墳	●		古墳中期	円墳	丘陵上(ゴルフ場内)	雑種地	那波野字大道越	私有地	竪穴式石室 墳丘径10~20mの小円墳。	円筒埴輪片。	墳丘:南北約20mか30m、東西約20m、高さ約3.0m。竪穴式石室。石棺の一部と思われる0.3m×0.2m、厚さ約0.1mほどの石が墳頂部に散乱。墳頂部は東西約7.0mの範囲が平坦である。墳丘西部の2カ所に幅1.3mと幅1.5m、高さ0.1mの範囲に葺石と考えられる石材のまとまりがあり。墳丘北側道路に埴輪片、墳丘上に5世紀の須恵器片散乱。	N:34°49'261" E:134°29'164"		009050
G9	51	西中ノ坪古墳1号墳	●		古墳中期	円墳	丘陵上(ゴルフ場内)	雑種地	那波野字西中ノ坪	私有地	竪穴式石室	円筒埴輪片、須恵器片多数出土。	調査後保存。墳丘は芝生におおわれている。今回の遺跡確認調査では確認できず。位置不明。		昭和30年4月、田中敏光、平井漢氏ら、島田清氏発掘調査。	009051
G9	52	西中ノ坪古墳2号墳		●	古墳中期	円墳	丘陵上(ゴルフ場内)	雑種地	那波野字西中ノ坪	私有地	竪穴式石室	埴輪、葺石、須恵器片出土。	完全消滅。		昭和30年5月、田中敏光、平井漢氏ら、島田清氏発掘調査。	009052
G9	新規(7)	西中ノ坪古墳3号墳	●		古墳中期(推定)	円墳(推定)	丘陵上(ゴルフ場内)	雑種地	那波野字西中ノ坪	私有地			墳丘:南北約20m、東西約20m、高さ約3.0mの高まりあり。頂上部に南北約8.0mの平坦部あり。	N:34°49'344" E:134°29'307"	墳丘を確認、古墳の可能性はある。	
G9	53	土穴池ノ上古墳		●	古墳後期	円墳	丘陵上(ゴルフ場内)	雑種地	那波野字下土穴	私有地	不明(竪穴式石室)		完全消滅。			009053
F10	54	宿弥塚古墳	●		古墳中期	円墳	丘陵地	山林	那波野字今池ノ下	私有地	竪穴式石室	形象埴輪、円筒埴輪、多数の須恵器片 脚台付きの埴2、器台2、甕2。	墳丘:南北35m~36mであるが、南側に南北約6m、東西約18m、高さ約1.0mのテラス状の部分があり、帆立貝型とするならば、南北41m~42mとなる。高さ約5m。墳頂部に南北約12mの範囲が平坦である。2m~3mの幅で周溝あり。墳丘の東部が削られている。墳頂には小さな祠が祭られている。	N:34°49'463" E:134°29'511"	『龍野市史第4巻』	009054

地図 番号	No.	遺跡名	現 存	全 壊	時代	種類	立地	地目	所在地	所有別	遺構	遺物	現状	座標	備考	遺跡 番号
G10	55	那波野古墳	●		古墳後期	円墳	丘陵裾	山林	那波野字下土穴	私有地	横穴式石室完存 玄室部は両袖式で、現長3.85m、幅約2.00m 石室 現長6.05m、幅10.75m、高さ1.70m	鉦。	墳丘は円墳なるも全面が田畑、背後がゴルフ場のため変形。玄室はほぼ床面が露出、羨道は流入土あり。天井石3個。	N:34°49'213" E:134°29'427"	昭和55年3月、県指定史跡。	009055
G9	56	那波野丸山古墳1号墳		●	古墳中期	円墳	丘陵裾	山林	那波野字研屋垣内	私有地	横穴式石室	須恵器片多数出土 滑製紡錘車、埴輪片。	完全消滅。		昭和27年、28年頃の工場建設により消滅。	009056
G9	57	那波野丸山古墳2号墳		●	古墳中期	円墳	丘陵裾	山林	那波野字研屋垣内	私有地	横穴式石室	須恵器片多数出土。	完全消滅。		昭和27年、29年頃の工場建設により消滅。	009057
G10	58	塚森古墳	●		古墳中期	帆立貝式前方後円墳(推定)	丘陵	山林	那波野三丁目	公有地	周濠をもつ中期円墳。下段高さ2.00mのところ幅1.00m前後のテラス 20~40cmぐらいの角礫の葺石残存。	円筒埴輪片、金環、勾玉(伝)	鉄道建設に伴い墳丘を削られた。帆立貝型である可能性があり、であるならば全長約60mである。二段築成。	N:34°49'100" E:134°29'451"	昭和49年10月、測量調査。相生市教育委員会	009058
H10	59	那波野荒神社裏山古墳		●	古墳後期	土壙墓	山裾	山林	那波野字高芝	私有地	土壙墓	布目瓦、須恵器片出土	消滅。		たび重なる豪雨と造成地による土採取のため崩壊。	009059
H9	60	赤坂古墳	●		古墳後期	円墳	丘陵頂上	畑	池之内字大上原	私有地	横穴式石室 石室 現長3.05m 幅2.00m	須恵器壺片出土。	墳丘:南北約10m、東西約8.7m 東側の畑も古墳に含まれるのならば、前方後円墳となり東西約31mとなる。南側の畑に須恵器片散布。現在、石室は確認できない。	N:34°48'577" E:134°29'173"		009060
H9	61	古池横山古墳1号墳		●	古墳後期	円墳	丘陵上	宅地	向陽台	私有地	横穴式石室	提瓶、蓋付杯、壺など多数の須恵器片出土。	完全消滅。		昭和23年10月、調査。平井漢氏。	009061
H9	62	古池横山古墳2号墳		●	古墳後期	円墳	丘陵頂上	宅地	向陽台	私有地	横穴式石室	耳輪、切子玉、土錘、刀剣片、滑石製小玉、須恵器多数出土。	完全消滅。		昭和36年3月、調査。平井漢氏。	009062
H9	63	烏帽子山古墳	●		古墳後期	円墳	山腹	山林	相生字烏帽子山	私有地	横穴式石室	不明。	石室:南北約3.7m、東西約1.2m(入口側)、約1.2m(奥壁側)、高さ約1.2m。天井石が崩れている。石材:溶結凝灰岩。	N:34°48'349" E:134°29'287"		009063
K8	64	小丸古墳1号墳		●	古墳後期	円墳	丘陵上	山林	相生字小丸	公有地	横穴式石室 石室 長6.20m 幅1.60m	高杯、杯、杯蓋、壺、器台、甕などの須恵器と鉄鏃、護石など出土。	調査後完全消滅。墳丘:東西14.00m、高さ3.00m、無袖式。明治時代に覆土流出、盗掘された形跡あり(伝)		昭和58年7月、発掘調査。天理大学、西谷真治氏ら。『小丸古墳群』発掘調査報告書	009064
K8	65	小丸古墳2号墳		●	古墳後期	円墳	丘陵裾	山林	相生字小丸	公有地	横穴式石室 石室 現長3.50m 玄室 現長3.50m 幅1.20m 羨道 現長3.30m 幅0.70m 袖幅0.50m 片袖式	高杯、杯蓋、甕、土師器片など多数の須恵器とつばつき鉄刀、水晶勾玉、切子玉、ガラス玉、土製玉多数出土。	調査後完全消滅。墳丘:現長11.00m、高さ2.50m、片袖式。		昭和58年7月、発掘調査。天理大学、西谷真治氏ら。『小丸古墳群』発掘調査報告書	009065
K8	66	小丸古墳3号墳		●	古墳後期	円墳	丘陵裾	山林	相生字南脇	公有地	横穴式石室	高杯、杯蓋、壺、杯などの須恵器多数出土。	採土と土砂崩れのため崩壊し完全消滅。		昭和51年、豪雨により崩壊。	009066
K8	67	小丸古墳4号墳		●	古墳後期	円墳	丘陵裾	山林	相生字南脇	公有地	横穴式石室	高杯、杯蓋、壺、杯その他須恵器多数出土。	採土と土砂崩れのため崩壊し完全消滅。		昭和51年、豪雨により崩壊。	009067
K8	68	野瀬古墳1号墳	●		古墳後期	円墳	丘陵裾	境内地	野瀬字上向	神社	横穴式石室 全長6.00m 幅1.10m	不明。	墳丘、失っている。石室半壊。奥壁東側壁一部残存。西側壁は埋土のため不明。天井石3個、室内に傾いた状態になっている。	N:34°47'034" E:134°28'523"	賀茂神社社殿背後にあり、石製の祠を数基祀っている。	009068
K8	69	野瀬古墳2号墳	●		古墳後期	円墳	丘陵裾	境内地	野瀬字上向	神社	横穴式石室 全長3.50m 幅0.85m	不明。	墳丘消失。奥壁は一枚石か。奥からみて左片袖。北向き開口。	N:34°47'034" E:134°28'523"		009069
K8	70	野瀬古墳3号墳	●		古墳後期	円墳	丘陵上	山林	野瀬字西ノ山	私有地	横穴式石室 墳丘 径12.00m 幅4.50m		墳丘:南北約12.5m、東西約12.6m。石室:南北約1.5m、東西約5.0m。盗掘されている。	N:34°47'041" E:134°28'451"		009070

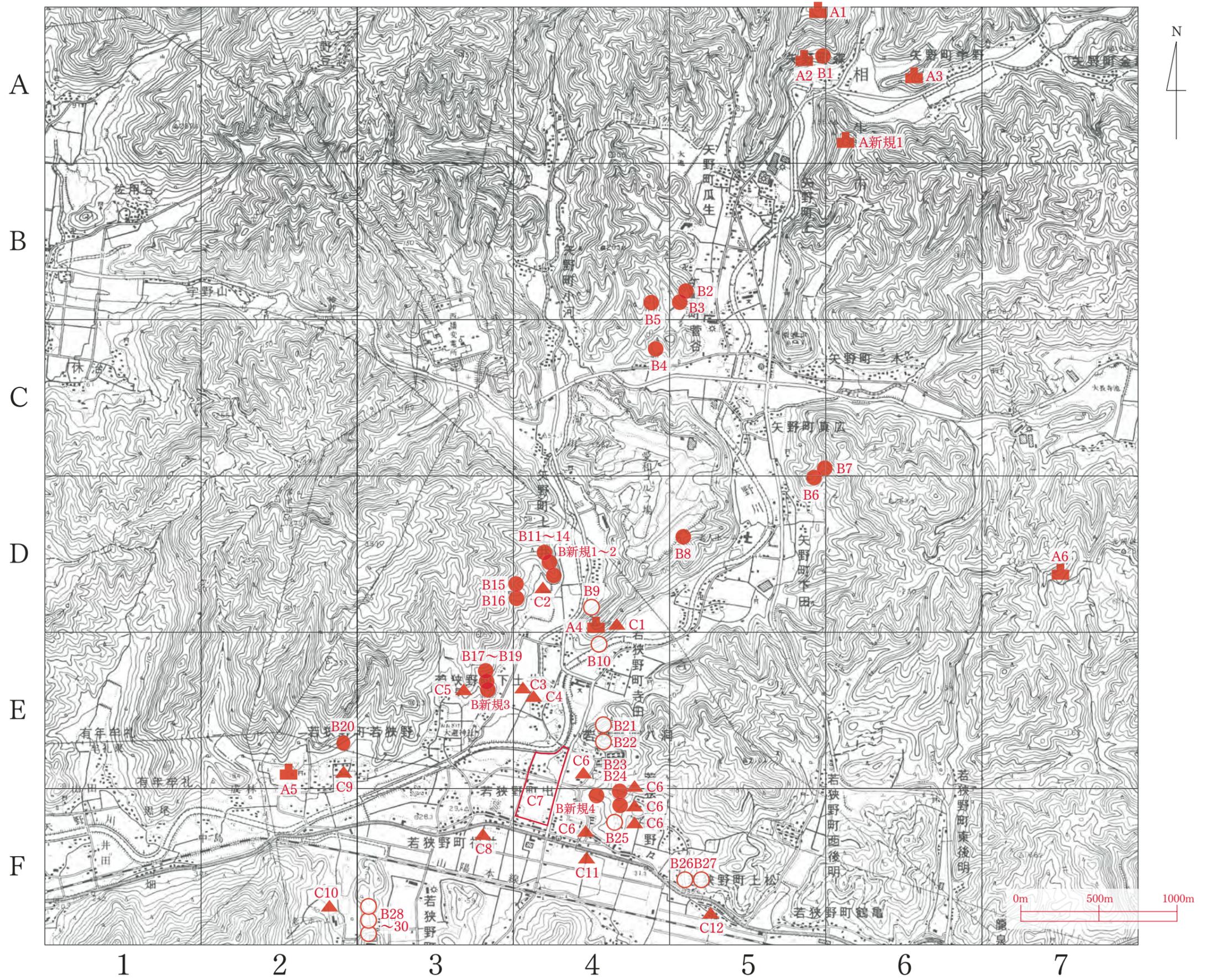
地図 番号	No.	遺跡名	現 存	全 壊	時代	種類	立地	地目	所在地	所有別	遺構	遺物	現状	座標	備考	遺跡 番号
M6	71	壺根古墳1号墳	●		古墳中期	円墳	丘陵頂上	山林	相生(坪根)	私有地	組合箱式石棺	須恵器片出土。	墳丘:長さ約7.0m、幅約9.0m、高さ約1.0m。 墳頂部改変の可能性あり。	N:34° 46'072" E:134° 27'337"	昭和30年3月、発掘調査。島田清氏ら。	009071
M7	72	壺根古墳群集墳2号	●		古墳中期	円墳	丘陵裾	保安林	相生字竹之浦	公有地	組合箱式石棺 石棺 長さ1.66m 幅約0.45 m 墳丘3.00×4.00m (推定)	ガラス小玉約20個、 石枕出土、その他 須恵器片。	墳丘消失、石棺露出。現在、整備されている。	N:34° 45'509" E:134° 27'494"	昭和30年3月、発掘調査。島田清氏ら。旧台帳 坪根2号墳古墳公園内。『壺根古墳群』発掘調査報告書	009072
M7	73	壺根古墳群集墳3号	●		古墳中期	円墳	丘陵裾	保安林	相生字竹之浦	公有地	組合箱式石棺 石棺 跡確認(3枚) 長さ41 ~48cm 幅23~38cm 厚さ10cm 墳丘3.00 ×4.00m(推定)	検出されず。	丘陵先端が削られ崖面に露出し、石棺自体は全壊。石棺の痕跡だけ確認できていたが、現在、崖面の護岸工事のため、確認できない。整備されている。	N:34° 45'509" E:134° 27'494"	昭和56年7月、発掘調査。天理大学、西谷真治ら。古墳公園内。『壺根古墳群』発掘調査報告書	009073
M7	74	壺根古墳群集墳4号	●		古墳中期	円墳	丘陵裾	保安林	相生字竹之浦	公有地	組合箱式石棺 墓壇 底 長さ1.86m 深さ50 ~60cm	検出されず。	道路工事のため石棺ほとんど削失。墳丘不明。側石3枚残存。現在、崖面の護岸工事のため、確認できない。整備されている。	N:34° 45'509" E:134° 27'494"	昭和56年7月、発掘調査。天理大学、西谷真治ら。古墳公園内。『壺根古墳群』発掘調査報告書	009074
M7	75	壺根古墳群集墳5号	●		古墳中期	円墳	丘陵裾	保安林	相生字竹之浦	公有地	組合箱式石棺 棺 身...墓壇内いっばい に板石を組む 内法 長さ74cm 幅20cm	検出されず。	墳丘は開墾のため不明。墓壇上半部削平。蓋石1枚残存。板石4枚と小石(角礫)。現在、整備されている。	N:34° 45'509" E:134° 27'494"	昭和56年7月、発掘調査。天理大学、西谷真治ら。古墳公園内。『壺根古墳群』発掘調査報告書	009075
M7	76	壺根古墳群集墳6号	●		古墳中期	円墳	丘陵裾	保安林	相生字竹之浦	公有地	組合箱式石棺 石棺 長さ1.05m 幅0.87m 墓壇深さ35~45cm	土師器片出土。	墳丘認められず。表土5cm下、数枚の側石板、蓋石1枚。長さ1.17m、幅0.65m。被覆露出(積石場状)。現在、整備されている。	N:34° 45'509" E:134° 27'494"	昭和56年7月、発掘調査。天理大学、西谷真治ら。古墳公園内。『壺根古墳群』発掘調査報告書	009076
M7	77	壺根古墳群集墳7号	●		古墳中期	円墳	丘陵裾	保安林	相生字竹之浦	公有地	組合箱式石棺 蓋石 (板石) 長さ1.04m 幅0.45m 厚さ9~16c m 内法 長さ0.70m 幅0.20m	検出されず。	墳丘、墓壇とも採土によって破壊。蓋石、側石一部残存。現在、整備されている。	N:34° 45'509" E:134° 27'494"	昭和56年7月、発掘調査。天理大学、西谷真治ら。古墳公園内。『壺根古墳群』発掘調査報告書	009077
M7	78	壺根古墳群集墳8号	●		古墳中期	円墳	丘陵裾	保安林	相生字竹之浦	公有地	組合箱式石棺 墓壇 長さ1.60m 幅0.90m 内法 長さ1.20m 幅 40cm	枕石、鉄刀子、滑石 製白玉1、滑石製棗 玉27、滑石製勾玉 1、出土。	墳丘、墓壇とも採土により削平になっている。蓋石6枚残存。側石4枚と2段の小口石積。現在、整備されている。	N:34° 45'509" E:134° 27'494"	昭和56年7月、発掘調査。天理大学、西谷真治ら。古墳公園内。『壺根古墳群』発掘調査報告書	009078
M7	79	壺根古墳群集墳9号	●		古墳中期	円墳	丘陵裾	保安林	相生字竹之浦	公有地	組合箱式石棺 墓壇 長さ2.25m 幅1.10m 内法 長さ1.58m 幅 45~50cm	鉄鏃5、青銅製ミニ チュア鏡1、碧玉製 管玉1、出土。	墳丘流出。蓋石の一部露出。人頭大の角礫や円礫、側石7枚と1段の小口積石、蓋石4枚残存。現在、整備されている。	N:34° 45'509" E:134° 27'494"	昭和56年7月、発掘調査。天理大学、西谷真治ら。古墳公園内。『壺根古墳群』発掘調査報告書	009079
M7	80	壺根古墳群集墳10号	●		古墳中期	円墳	丘陵裾	保安林	相生字竹之浦	公有地	組合箱式石棺 墓壇 長さ2.43m 幅1.32m 内法 長さ1.48m 幅 15~30cm	枕石、釣針状鉄品 1、出土。	墳丘と2列の礫郡。側石8枚、蓋石10以上残存。現在、整備されている。	N:34° 45'509" E:134° 27'494"	昭和56年7月、発掘調査。天理大学、西谷真治ら。古墳公園内。『壺根古墳群』発掘調査報告書	009080
M7	81	壺根古墳群集墳11号	●		古墳中期	円墳	丘陵裾	保安林	相生字竹之浦	私有地	組合箱式石棺 墳丘 3.40×3.60m	須恵器片出土。	墳丘上に角礫群(5個)あり。	N:34° 45'509" E:134° 27'494"	『壺根古墳群』発掘調査報告書	009081
M7	82	壺根古墳群集墳12号	●		古墳中期	円墳	丘陵裾	保安林	相生字竹之浦	私有地	組合箱式石棺 墳丘 1.40×1.20m		墳丘はやや方形。その上に2個の角礫あり。	N:34° 45'509" E:134° 27'494"	『壺根古墳群』発掘調査報告書	009082
M7	83	壺根古墳群集墳13号	●		古墳中期	円墳	丘陵裾	保安林	相生字竹之浦	私有地	組合箱式石棺 墳丘 3.00×3.00m		墳丘、緩やかな斜面に6個の角礫あり。	N:34° 45'509" E:134° 27'494"	『壺根古墳群』発掘調査報告書	009083
M7	84	壺根古墳群集墳14号	●		古墳中期	円墳	丘陵裾	保安林	相生字竹之浦	私有地	組合箱式石棺 墳丘 2.00×2.00m		墳丘、円形で小規模、1個の角礫がある。	N:34° 45'509" E:134° 27'494"	『壺根古墳群』発掘調査報告書	009084
M7	85	壺根古墳群集墳15号	●		古墳中期	円墳	丘陵裾	保安林	相生字竹之浦	私有地	組合箱式石棺 墳丘 3.40×3.60m		墳丘、4個の角礫を含む。	N:34° 45'509" E:134° 27'494"	『壺根古墳群』発掘調査報告書	009085

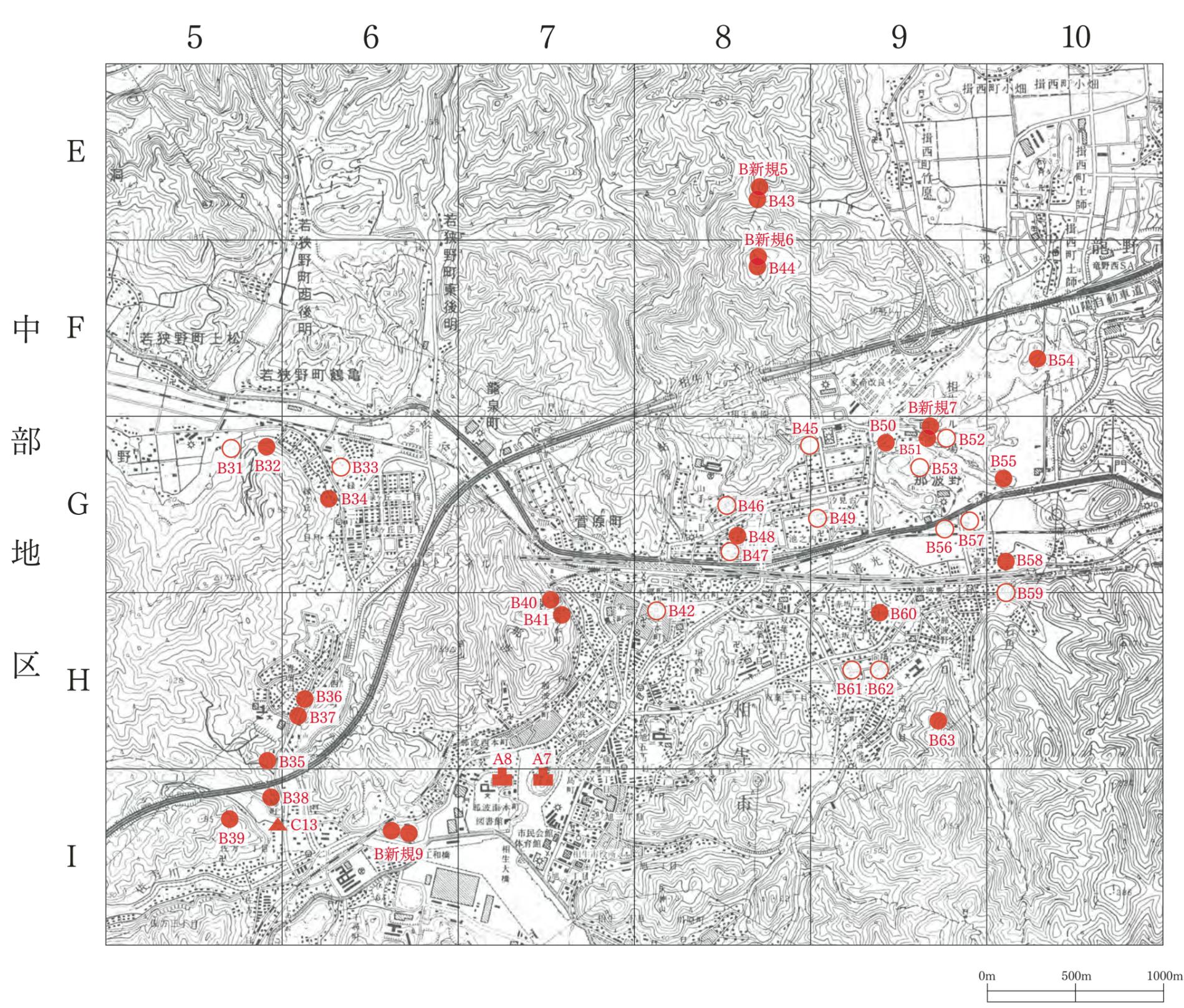
地図 番号	No.	遺跡名	現 存	全 壊	時代	種類	立地	地目	所在地	所有別	遺構	遺物	現状	座標	備考	遺跡 番号
M7	86	壺根古墳群集墳16号	●		古墳中期	円墳	丘陵裾	保安林	相生字竹之浦	私有地	組合箱式石棺 墳丘 1.80×1.40m		墳丘、フラットになっており小規模。	N:34° 45'509" E:134° 27'494"	『壺根古墳群』発掘調査報告書	009086
M7	87	壺根古墳群集墳17号	●		古墳中期	円墳	丘陵裾	保安林	相生字竹之浦	私有地	組合箱式石棺 墳丘 約5.00m×5.00m		墳丘、1個の角礫を含む。直径約5m。	N:34° 45'509" E:134° 27'494"	『壺根古墳群』発掘調査報告書	009087
M7	88	壺根古墳群集墳18号	●		古墳中期	円墳	丘陵裾	保安林	相生字竹之浦	私有地	組合箱式石棺 墳丘 1.80×1.80m		墳丘フラットになっており角礫3個あり。	N:34° 45'509" E:134° 27'494"	『壺根古墳群』発掘調査報告書	009088
M7	89	壺根古墳群集墳19号	●		古墳中期	円墳	丘陵裾	保安林	相生字竹之浦	私有地	組合箱式石棺 墳丘 2.00×2.00m		墳丘、平坦だが、角礫群あり。	N:34° 45'509" E:134° 27'494"	『壺根古墳群』発掘調査報告書	009089
M7	90	壺根古墳群集墳20号	●		古墳中期	円墳	丘陵裾	保安林	相生字竹之浦	私有地	組合箱式石棺 墳丘 約5.00m×5.00m		墳丘:直径約5.0m、高さ約1.0m。中央部は石棺状に並べられている。盗掘跡あり。	N:34° 45'509" E:134° 27'494"	『壺根古墳群』発掘調査報告書	009090
M7	91	壺根古墳群集墳21号	●		古墳中期	円墳	丘陵裾	保安林	相生字竹之浦	私有地	組合箱式石棺 墳丘 約5.00m×5.00m		墳丘は平坦だが角礫群あり。礫1個露出。墳丘:直径約5.0m。	N:34° 45'509" E:134° 27'494"	『壺根古墳群』発掘調査報告書	009091
M7	新規 (8)	壺根古墳群集墳22号	●		古墳中期 (推定)	円墳 (推定)	丘陵裾	保安林	相生字竹之浦	私有地			21号の南へ約8.0mの地点に直径約5.0mほどの高まりあり。	N:34° 45'509" E:134° 27'494"	墳丘を確認、古墳の可能性が ある。	
I 6	新規 (9)	那波西古墳群	●		古墳後期 (推定)	円墳 (推定)	丘陵上	山林	那波字鍋崎	私有地			工和橋北交差点の西側丘陵上に、古墳七基があるとされているが、現状では不明。		『相生市・緑ヶ丘窯址群Ⅲ』発掘調査報告書	

集落址・その他(C)

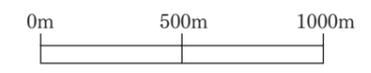
地図 番号	No.	遺跡名	全壊	種類	立地	地目	所在地	所有別	遺構	遺物	現状	備考	遺跡 番号
D4	1	下土井城山遺跡		土器等散布地	山麗	山林	若狭野町下土井字城山	私有地		弥生式土器片、埴、高杯片出土。			090092
D4	2	下土井池の下遺跡		散布地	山麗 平地	ため池	若狭野町下土井字池ノ下	私有地		弥生式土器片。			090093
E4	3	下土井遺跡		集落址 条理跡	段丘 平地	田	若狭野町下土井字土井	私有地	方形住居址、土壙、多数のピット、竈跡、条里遺構などの複合遺跡。西部地区 東西20m×南北17.03m 東部地区 東西32m×南北27m 南部地区 東西9.0m×南北8.0m	高杯型の弥生式土器片、多数の須恵器片、紡錘車、土師器片、水晶玉、青磁椀、羽口片、かまど片など。		昭和58年12月、発掘調査。有年考古館長、松岡秀夫氏ら。『相生市下土井遺跡発掘調査報告書』	090094
E4	4	下土井宮本遺跡		土器等散布地	段丘 平地	田	若狭野町下土井	私有地	方形住居址、多数のピット、複合遺跡。	弥生式土器片、銅銭(元祐通宝、宋銭)須恵器片出土。		昭和58年7月、農業基盤整備事業等の予定地の試掘調査。有年考古館長、松岡秀夫氏	090095
E3	5	奥の山遺跡		土器等散布地	丘陵上	山林	若狭野町福井字東山	私有地		弥生式土器片、環状石斧。		福井須賀神社裏山にある。	090096
E4 ～ F4	6	野々宮山遺跡	●	土器等散布地	丘陵上および丘陵裾	山林 田	若狭野町野々字西山～八洞字前山	私有地		弥生式土器片各種、石斧、石鏃、サヌカイト、原石採取。			090097
E4 ～ F4	7	若狭野条里遺跡		条里跡		田	若狭野町出付近	私有地	条里制遺構。				090098
F3	8	福井池の下遺跡		住居址(推定)	沖積 平野	田	若狭野町福井字池の下	私有地	柱穴跡(堀方跡)41個、土壙7個、排水溝など(長方形又は楕円形のもの、円形のもの)周溝、棺出土せず。	弥生式土器片、須恵器片の散布、木炭、サヌカイト製石鏃。		昭和41年4月、発掘調査。久保田福大氏ら。昭和57年12月農業基盤整備事業に伴う発掘調査。有年考古館長、松岡秀夫氏ら。『福井池ノ下遺跡発掘調査報告書』	090099
E2	9	若狭野廃寺遺跡		庵(寺院跡)	山頂～山裾	山林 田 畑 宅地	若狭野町若狭野字寺山	私有地	恩明寺(真言宗)屋敷跡に本堂と鐘搗堂の跡→現地に移す。	布目瓦、須恵器片。		昭和33年11月 相生市史資料編「第1集」(恩明寺推定地内)	090100
F2	10	松崎遺跡		土器等散布地	山裾	造成地 池	若狭野町雨内	私有地		弥生式土器多数採集。			090101
F4	11	宮ノ前遺跡		水田遺構	平野	宅地 田	若狭野町野々	公有地	土坑、ピット、畦状遺構、暗渠遺構。	須恵器、備前焼、宋銭。	発掘調査し消滅。	平成20年2月、一般国道2号相生有年道路事業による遺跡確認・発掘調査。兵庫県教育委員会	090231
F5	12	西柄遺跡		集落跡	山裾	宅地	若狭野町上松	公有地	土坑、井戸、掘立柱建物遺構、火葬址。	備前焼、青磁、瓦質羽釜、須恵器、石鏃、サヌカイトチップ等。	発掘調査し消滅。	平成20年2月、一般国道2号相生有年道路事業による遺跡確認・発掘調査。兵庫県教育委員会	090230
I 5	13	佐方遺跡	●	土器等散布地	山裾	宅地 田	佐方一丁目	私有地		縄文式土器片、石鏃、石斧など多数。			090102
M7	14	壺根遺跡	●	土器等散布地	丘陵裾	山林	相生字竹之浦	私有地		縄文土器片出土。		(古墳公園内)	090103

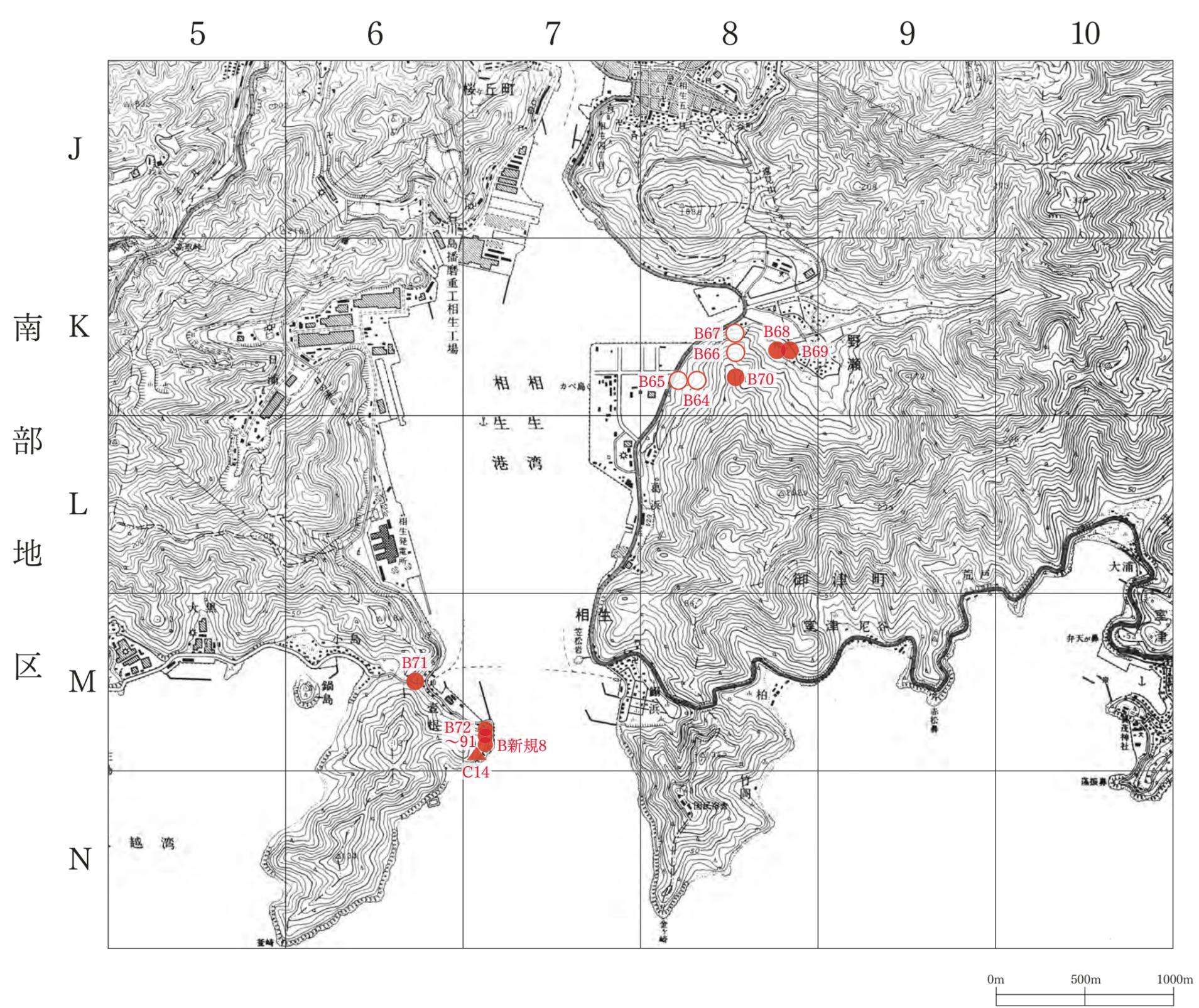
北部地区





E  
 中 F  
 部 G  
 地 H  
 区 I





南  
部  
地  
区

J

K

L

M

N

5

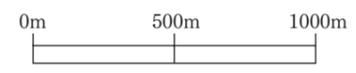
6

7

8

9

10



窯跡

古池那波野古窯跡群											
地図番号	No.	遺跡名	全壊	時代	立地	所在地	所有別	遺物	現状	備考	遺跡番号
A	1	古池1号窯	●	古墳	丘陵裾	古池本町	私有地	須恵器片。	消滅。		090112
A	2	古池窯跡	●	江戸	丘陵裾	古池本町	私有地	陶磁器片。	消滅。		090113
A	3	古池横山窯跡	●	平安後期	丘陵裾	古池本町	私有地	須恵器片。	消滅。		090114
A	4	平芝1号窯		平安後期	丘陵裾	古池一丁目	私有地	布目瓦。	窯体、灰原不明。		090115
A	5	平芝2号窯		平安後期	丘陵裾	古池一丁目	私有地	布目瓦。	窯体、灰原不明。		090116
A	6	平芝3号窯		平安後期	丘陵裾	古池一丁目	私有地	布目瓦。	窯体、灰原不明。		090117
A	7	丸山1号窯	●	古墳後期	丘陵裾	那波野土井	私有地	円筒埴輪片 須恵器の杯、壺、甕片。	発掘調査し消滅。	昭和57年8月、松岡秀夫氏を中心とし発掘調査。	090118
A	8	丸山2号窯	●	古墳後期							090119
A	9	丸山3号窯	●	古墳後期							090120
A	10	丸山4号窯	●	古墳後期							090121
A	11	土井1号窯		古墳	丘陵裾	那波野土井	私有地	須恵器片、窯壁片。	窯体不明。		090122
A	12	大道越窯跡		古墳	丘陵裾	那波野土井	私有地	須恵器片、窯壁片。	窯体不明。		090123
光明山古窯跡群											
地図番号	No.	遺跡名	全壊	時代	立地	所在地	所有別	遺物	現状	備考	遺跡番号
B	1	光明山1号窯		平安後期	山裾	陸	私有地	須恵器片。	窯体露出。		090124
B	2	光明山2号窯		奈良	山裾	陸	私有地	須恵器片。	窯体不明。		090125
B	3	光明山3号窯		平安前期	山裾	陸	私有地	須恵器片。	現存。		090126
B	4	光明山4号窯		奈良	山裾	陸	私有地	須恵器片。	窯体不明。		090127
B	5	光明山5号窯		奈良	山中腹	陸	私有地	須恵器片。	現存。		090128
B	6	光明山6号窯		奈良	山中腹	陸	私有地	須恵器片。	現存。		090129
B	7	光明山7号窯		奈良	山裾	陸	私有地	須恵器片。	窯体不明。		090130
B	8	光明山8号窯	●	奈良	山頂	陸	私有地	杯、碗、短劉壺、長劉壺の須恵片。	発掘調査し消滅。	平成元年7月発掘調査、相生市教育委員会。『光明山古窯跡』発掘調査報告書	
B	9	構谷1号窯		平安後期	山裾	陸構谷	私有地	須恵器片。	灰原池の中、現存。		090131
B	10	構谷2号窯	●	平安後期	丘陵中腹	陸構谷	公有地	須恵器。	発掘調査し消滅。	昭和57年7月、松岡秀夫氏を中心とし発掘調査。	090132
B	11	構谷3号窯	●	平安後期	丘陵中腹	陸構谷	公有地	須恵器。	発掘調査し消滅。	昭和57年7月 松岡秀夫氏を中心とし発掘調査。	090133
西後明窯跡群(西後明地区)											
地図番号	No.	遺跡名	全壊	時代	立地	所在地	所有別	遺物	現状	備考	遺跡番号
C	1	西後明1号窯		平安後期	丘陵裾	若狭野町西後明	私有地	須恵器片。	現存、灰原露出。		090134
C	2	西後明2号窯		平安後期	丘陵裾	若狭野町西後明	私有地	須恵器片。	現存、灰原露出。(煙管状窯)		090135
C	3	西後明3号窯		平安前期	丘陵裾	若狭野町西後明	私有地	須恵器片。	現存、灰原露出。(煙管状窯)		090136
C	4	西後明4号窯		奈良後期	丘陵裾	若狭野町西後明	私有地	須恵器片。	半壊、窯体露出。		090137
C	5	西後明5号窯		平安中期	丘陵裾	若狭野町西後明	私有地	須恵器片。	現存、灰原露出。		090138
C	6	西後明6号窯		平安前期	丘陵裾	若狭野町西後明	私有地	須恵器片。	現存、灰原露出。		090139
C	7	西後明7号窯		平安中期	丘陵裾	若狭野町西後明	私有地	須恵器片。	現存、灰原露出。		090140
C	8	西後明8号窯		平安後期	丘陵裾	若狭野町西後明	私有地	須恵器片。	半壊、窯体露出し、灰原池の中。		090141
C	9	西後明9号窯		平安後期	丘陵裾	若狭野町西後明	私有地	須恵器片。	半壊、窯体露出し、灰原池の中。		090142
C	10	西後明10号窯		奈良	丘陵裾	若狭野町西後明	私有地	須恵器片。	窯体不明、灰原池の中。		090143
C	11	西後明11号窯		平安後期	丘陵裾	若狭野町西後明	私有地	須恵器片。	現存、灰原露出。		090144
C	12	西後明12号窯		平安前期	丘陵裾	若狭野町西後明	私有地	須恵器片。	現存、灰原露出。		090145
C	13	西後明13号窯		奈良	丘陵裾	若狭野町西後明	私有地	須恵器片。	半壊、灰原池の中、窯体露出。		090146
C	14	西後明14号窯		奈良	丘陵裾	若狭野町西後明	私有地	須恵器片。	半壊、灰原池の中、窯体露出。		090147
C	15	西後明15号窯		平安中期	丘陵裾	若狭野町西後明	私有地	須恵器片。	現存。	1号窯と重なる。	090148
C	16	西後明16号窯		平安中期	丘陵裾	若狭野町西後明	私有地	須恵器片。	窯体の位置不明、須恵器片散在。		090149
C	17	西後明17号窯		平安後期	丘陵裾	若狭野町西後明	私有地	須恵器片。	現存。		090150
C	18	西後明18号窯	●	平安後期	丘陵裾	若狭野町西後明	私有地	杯、碗の須恵器片。	発掘調査し消滅。	昭和60年3月松岡秀夫氏を中心とし発掘調査。『相生市埋蔵文化財報告第9集』	090151
C	19	西後明19号窯	●	平安後期	丘陵裾	若狭野町西後明	私有地	碗、甕、蓋、壺、輪高台付深鉢の須恵器片。	発掘調査し消滅。	昭和59年7月松岡秀夫氏を中心とし発掘調査。『相生市埋蔵文化財報告第7集』	090152
C	20	西後明20号窯	●	平安後期	丘陵中腹	若狭野町西後明	私有地	碗の須恵器片。	発掘調査し消滅。	昭和60年3月松岡秀夫氏を中心とし発掘調査。『相生市埋蔵文化財報告第9集』	090153
C	21	西後明21号窯		平安前期	丘陵裾	若狭野町西後明	私有地	須恵器片。	現存。		090154
C	22	西後明22号窯		平安後期	丘陵裾	若狭野町西後明	私有地	杯、碗、の須恵器片。	窯体一部分発掘調査、灰原、窯の一部は土砂に埋没。	昭和60年3月松岡秀夫氏を中心とし発掘調査。『相生市埋蔵文化財報告第9集』	090155
C	23	西後明23号窯		平安中期～後期	丘陵裾	若狭野町西後明	私有地	碗、杯身、杯蓋、壺、甕の須恵器片。	窯体不明、灰原発掘調査。	昭和60年3月松岡秀夫氏を中心とし発掘調査。『相生市埋蔵文化財報告第9集』	090156
C	24	西後明24号窯		平安後期	丘陵裾	若狭野町西後明	私有地	須恵器片。	現存。		090157

地図 番号	No.	遺跡名	全壊	時代	立地	所在地	所有別	遺物	現状	備考	遺跡 番号
C	25	西後明25号窯		平安後期	丘陵裾	若狭野町西後明	私有地	須恵器片。	窯体位置不明。		090158
C	26	西後明26号窯		奈良	丘陵中腹	若狭野町西後明	私有地	須恵器片。	土砂に埋まり窯体不明。		090159
C	27	西後明27号窯		平安後期	丘陵中腹	若狭野町西後明	私有地	須恵器片。	土砂に埋まり窯体不明。		090160
C	28	西後明28号窯		平安中期	丘陵裾	若狭野町西後明	私有地	須恵器片。	現存。		090161
C	29	西後明29号窯		奈良後期	丘陵裾	若狭野町西後明	私有地	須恵器片。	現存。		090162
C	30	西後明30号窯		平安後期	丘陵裾	若狭野町東後明	私有地	須恵器片。	半壊、灰原露出。		090163
C	31	西後明31号窯		平安中期	丘陵裾	若狭野町西後明	私有地	須恵器片。	現存。		090164
C	32	西後明32号窯		平安中期	丘陵裾	若狭野町西後明	私有地	須恵器片。	現存。		090165
C	33	西後明33号窯		平安後期	丘陵裾	若狭野町西後明	私有地	須恵器片。	現存。		090166
C	34	西後明34号窯		平安後期	丘陵裾	若狭野町西後明	私有地	須恵器片。	現存。		090167
C	35	西後明35号窯		平安前期	丘陵裾	竜泉町	私有地	須恵器片。	現存。		090168
C	36	西後明36号窯		平安前期	丘陵裾	若狭野町西後明	私有地	須恵器片。	現存。		090169
C	37	西後明37号窯		平安後期	丘陵裾	若狭野町西後明	私有地	須恵器片。	現存。		090170
C	38	西後明38号窯	●	平安後期	丘陵裾	若狭野町西後明	私有地	須恵器片、瓦。	消滅。		090171
C	39	西後明39号窯		奈良	丘陵裾	若狭野町西後明	私有地	須恵器片。	現存。		090172
C	40	西後明40号窯	●	平安後期	丘陵裾	若狭野町東後明	公有地	杯、皿、壺、鉢、硯の須恵器片。	発掘調査し消滅。	平成4年兵庫県教育委員会発掘調査。『相生市西後明40号窯』発掘調査報告書	090173
C	41	西後明41号窯		奈良～平安	丘陵裾	若狭野町東後明	私有地	杯、壺、盃碗、盤、鉢、蓋の須恵器片。	発掘調査後埋戻し。	昭和59年7月松岡秀夫氏を中心とし発掘調査。『相生市埋蔵文化財報告第7集』	090174
C	42	西後明42号窯		平安	丘陵裾	若狭野町西後明	私有地	須恵器片。	窯体位置不明。		090175
C	43	西後明43号窯		平安後期	丘陵裾	若狭野町西後明	私有地	須恵器片。	窯体位置不明。		090176
C	44	西後明44号窯		平安	丘陵裾	若狭野町西後明	私有地	須恵器片。	現存。		090177
C	45	西後明45号窯		平安	丘陵裾	若狭野町西後明	私有地	須恵器片。	窯体露出。		
(鶴亀地区)											
地図 番号	No.	遺跡名	全壊	時代	立地	所在地	所有別	遺物	現状	備考	遺跡 番号
D	1	鶴亀1号窯		平安中期	丘陵裾	若狭野町上松	私有地	須恵器片。	現存。		090178
D	2	鶴亀2号窯		平安中期	丘陵裾	若狭野町上松	私有地	須恵器片。	現存。		090179
D	3	鶴亀3号窯		平安後期	丘陵裾	若狭野町鶴亀	私有地	須恵器片。	現存。		090180
D	4	鶴亀4号窯		平安後期	丘陵裾	若狭野町鶴亀	私有地	須恵器片。	窯体位置不明。		090181
D	5	鶴亀5号窯		平安後期	丘陵裾	若狭野町上松	私有地	須恵器片。	窯体位置不明。		090182
D	6	鶴亀6号窯		平安後期	丘陵裾	若狭野町上松	私有地	須恵器片。	現存。		090183
D	7	鶴亀7号窯		平安	丘陵裾	若狭野町上松	私有地	須恵器片。	現存。		090184
D	8	鶴亀8号窯		平安後期	丘陵裾	若狭野町上松	私有地	須恵器片。	窯体位置不明。		090185
(野々地区)											
地図 番号	No.	遺跡名	全壊	時代	立地	所在地	所有別	遺物	現状	備考	遺跡 番号
E	1	野々1号窯	●	平安後期	丘陵裾	若狭野町野々	私有地	須恵器片。	消滅。		090186
E	2	野々2号窯		平安後期	丘陵裾	若狭野町野々	私有地	須恵器片。	現存。		090187
入野緑ヶ丘古窯群跡(入野地区)											
地図 番号	No.	遺跡名	全壊	時代	立地	所在地	所有別	遺物	現状	備考	遺跡 番号
F	1	入野1号窯	●	平安後期	丘陵裾	若狭野町入野	私有地	杯、碗、皿、甕、鉢の須恵器片。	発掘調査し消滅。	昭和56年7月松岡秀夫氏を中心とし発掘。	090188
F	2	入野2号窯	●	平安後期	丘陵裾	若狭野町入野	私有地		発掘調査し消滅。	『入野窯跡発掘調査報告書』	090189
F	3	入野3号窯	●	平安後期	丘陵裾	若狭野町入野	私有地	須恵器片。	消滅。		090190
F	4	入野4号窯		平安後期	丘陵裾	若狭野町入野	私有地	須恵器片。	現存。		090191
F	5	入野5号窯		平安中期	丘陵裾	若狭野町入野	私有地	須恵器片。	現存。		090192
F	6	入野6号窯		平安中期	丘陵裾	若狭野町入野	私有地	須恵器片。	現存。		090193
F	7	入野7号窯		平安中期	丘陵裾	若狭野町入野	私有地	須恵器片。	現存。		090194
F	8	入野8号窯	●	平安後期	丘陵裾	若狭野町入野	私有地	須恵器片。	消滅。		090195
F	9	入野9号窯		平安後期	丘陵裾	若狭野町入野	私有地	須恵器片。	現存。		090196
F	10	入野10号窯		平安後期	丘陵裾	若狭野町入野	私有地	須恵器片。	現存。		090197
F	11	入野11号窯		平安	丘陵中腹	若狭野町入野	私有地	須恵器片。	現存。		
F	12	入野12号窯		平安	丘陵中腹	若狭野町入野	私有地	須恵器片。	現存。		
F	13	那波仁清窯		江戸中期	丘陵裾	若狭野町入野	私有地	陶磁器片。	現存。		090198
(緑ヶ丘一の谷地区)											
地図 番号	No.	遺跡名	全壊	時代	立地	所在地	所有別	遺物	現状	備考	遺跡 番号
G	1	緑ヶ丘一の谷1号窯		平安後期	丘陵裾	緑ヶ丘一丁目	私有地	須恵器片。	現存。		090199
G	2	緑ヶ丘一の谷2号窯	●	平安後期	丘陵裾	緑ヶ丘一丁目	私有地	杯、碗の須恵器片。	発掘調査し消滅。	昭和58年7月松岡秀夫氏を中心とし発掘調査。『緑ヶ丘一の谷2号窯発掘調査報告書』	090200
G	3	緑ヶ丘一の谷3号窯	●	平安後期	丘陵裾	緑ヶ丘一丁目	私有地	須恵器片。	消滅。	『相生市史資料編(第10集)』(昭和43年3月)	090201

地図番号	No.	遺跡名	全壊	時代	立地	所在地	所有別	遺物	現状	備考	遺跡番号
G	4	緑ヶ丘一の谷4号窯	●	平安後期	丘陵裾	緑ヶ丘一丁目	私有地	須恵器片。	消滅。	『相生市史資料編(第10集)』(昭和43年3月)	090202
G	5	緑ヶ丘一の谷5号窯	●	平安後期	丘陵裾	緑ヶ丘一丁目	私有地	須恵器片。	消滅。	『相生市史資料編(第10集)』(昭和43年3月)	090203
G	6	緑ヶ丘一の谷6号窯	●	平安後期	丘陵裾	緑ヶ丘一丁目	私有地	須恵器片。	消滅。		090204
G	7	緑ヶ丘一の谷7号窯	●	平安後期	丘陵裾	緑ヶ丘一丁目	私有地	杯、碗、皿、壺、甕の須恵器片。	発掘調査し消滅。	昭和42年8月発掘調査。鈴木豊彦氏ら。『相生市史資料編(第10集)』(昭和43年3月)	090205
G	8	緑ヶ丘一の谷8号窯	●	平安後期	丘陵裾	緑ヶ丘一丁目	私有地	須恵器片。	消滅。	『相生市史資料編(第10集)』(昭和43年3月)	090206
G	9	緑ヶ丘一の谷9号窯	●	平安後期	丘陵裾	緑ヶ丘一丁目	私有地	杯、碗、皿、壺、甕、耳皿の須恵器片。	発掘調査し消滅。	昭和41年8月発掘調査。鈴木豊彦氏ら。『相生市史資料編(第10集)』(昭和43年3月)	090207
G	10	緑ヶ丘一の谷10号窯		平安後期	丘陵裾	緑ヶ丘一丁目	私有地	須恵器片。	現存。		090208
G	11	緑ヶ丘一の谷11号窯	●	平安後期	丘陵裾	緑ヶ丘一丁目	私有地	須恵器片。	消滅。		090209
G	12	緑ヶ丘一の谷12号窯		平安後期	丘陵裾	緑ヶ丘一丁目	私有地	須恵器片。	現存。		090210
G	13	緑ヶ丘一の谷13号窯		平安	丘陵裾	緑ヶ丘一丁目	私有地	須恵器片。	現存。		

(緑ヶ丘矢ヶ谷地区)

地図番号	No.	遺跡名	全壊	時代	立地	所在地	所有別	遺物	現状	備考	遺跡番号
H	1	緑ヶ丘矢ヶ谷1号窯	●	平安後期	丘陵裾	緑ヶ丘四丁目	公有地		発掘調査し消滅。		090211
H	2	緑ヶ丘矢ヶ谷2号窯	●	平安後期	丘陵裾	緑ヶ丘四丁目	公有地	碗、皿、甕の須恵器片。	発掘調査し消滅。	昭和54年兵庫県教育委員会発掘調査。『相生市・緑ヶ丘窯址群』発掘調査報告書	090212
H	3	緑ヶ丘矢ヶ谷3号窯	●	平安後期	丘陵裾	緑ヶ丘四丁目	公有地		発掘調査し消滅。		090213
H	4	緑ヶ丘矢ヶ谷4号窯	●	平安後期	丘陵裾	緑ヶ丘四丁目	公有地		発掘調査し消滅。		090214
H	5	緑ヶ丘矢ヶ谷5号窯		平安後期	丘陵裾	緑ヶ丘四丁目	私有地	須恵器片。	半壊、灰原露出。		090215
H	6	緑ヶ丘矢ヶ谷6号窯		平安後期	丘陵裾	緑ヶ丘四丁目	私有地	杯、碗、皿、壺、甕、鉢の須恵器片。	灰原、窯体一部分発掘調査し消滅。	平成9年兵庫県教育委員会発掘調査。	090216
H	7	緑ヶ丘矢ヶ谷7号窯	●	平安後期	丘陵裾	緑ヶ丘四丁目	公有地		発掘調査し消滅。	昭和54年兵庫県教育委員会発掘調査。『相生市・緑ヶ丘窯址群』発掘調査報告書	090217
H	8	緑ヶ丘矢ヶ谷8号窯	●	平安後期	丘陵裾	緑ヶ丘四丁目	公有地	煙管状窯 碗、皿、甕の須恵器片。	発掘調査し消滅。		090218
H	9	緑ヶ丘矢ヶ谷9号窯	●	平安後期	丘陵裾	緑ヶ丘四丁目	公有地		発掘調査し消滅。	昭和55年兵庫県教育委員会発掘調査。『相生市・緑ヶ丘窯址群II』発掘調査報告書	090219
H	10	緑ヶ丘矢ヶ谷10号窯	●	平安後期	丘陵裾	緑ヶ丘四丁目	公有地		発掘調査し消滅。		090220
H	11	緑ヶ丘矢ヶ谷11号窯	●	平安後期	丘陵裾	緑ヶ丘四丁目	公有地		発掘調査し消滅。		090221
H	12	緑ヶ丘矢ヶ谷12号窯		平安後期	丘陵中腹	緑ヶ丘四丁目	私有地	須恵器片。	現存。		090222
H	13	緑ヶ丘矢ヶ谷13号窯	●	平安後期	丘陵裾	緑ヶ丘四丁目	私有地	須恵器片。	消滅。		090223
H	14	緑ヶ丘矢ヶ谷14号窯	●	平安後期	丘陵裾	緑ヶ丘四丁目	私有地	須恵器片。	消滅。		090224
H	15	緑ヶ丘矢ヶ谷15号窯		平安	丘陵裾	緑ヶ丘四丁目	私有地	須恵器片。	窯体位置不明。		

(緑ヶ丘乳母懐地区)

地図番号	No.	遺跡名	全壊	時代	立地	所在地	所有別	遺物	現状	備考	遺跡番号
J	1	緑ヶ丘乳母懐1号窯	●	平安後期	丘陵裾	那波	公有地	杯、碗、皿、壺、鉢の須恵器片。	発掘調査し消滅。	平成9年兵庫県教育委員会発掘調査。	090225
J	2	緑ヶ丘乳母懐2号窯		平安後期	丘陵裾	那波	私有地	須恵器片。	現存。		090226
J	3	緑ヶ丘乳母懐3号窯	●	平安後期	丘陵裾	那波	公有地	須恵器片。	発掘調査し消滅。	昭和55年兵庫県教育委員会発掘調査。『相生市・緑ヶ丘窯址群II』発掘調査報告書	090227
J	4	緑ヶ丘乳母懐4号窯		平安後期	丘陵裾	那波	私有地	須恵器片。	現存。		090228

(雨内地区)

地図番号	No.	遺跡名	全壊	時代	立地	所在地	所有別	遺物	現状	備考	遺跡番号
K	1	雨内瓦窯	●	平安後期	丘陵裾	若狭野町雨内	私有地	瓦。	消滅。		090229

